

＜発行者＞
特定非営利活動(NPO)法人
サムリブ 理事長 藤岡登
指定障害福祉サービス事業所
サムリブ高岡
〒061-3481
石狩市八幡町高岡31-6
Tel & Fax 0133-66-3388
E-mail :
samliv@lime.plala.or.jp
ホームページ
<http://www.facebook.com/nposamliv>

高岡の歴史・・・のこと

石狩の高岡の開拓の歴史を、ここで紹介しましょう。

高岡の開拓の歴史は、明治18(1885)年、山口県からの移民によって行われたのがはじまりです。

■ はじまり

周防(すおう)国玖珂(くが)郡中津村(現山口県岩国市)から20戸106人が入植したのが、開拓のはじまりです。日本海まわりの帆船で3週間もかかって小樽港に入港した航行中に船内で「赤ちゃん」が誕生し、アメリカ人の船長が「フネ」と名付けたエピソードが残されています。上陸後は、小樽から軽川(がるがわ)現在の手稲、札幌などで入植地を探しましたが適地がなく、最後に知津狩川(しらつかりがわ)沿いの低地に落ち着くことになったのです。しかし、翌年春、融雪期の大洪水にみまわられて、高台の現在地に移転したと残されています。

■ 苦闘

入植者が貸付を受けたのは1戸当り5,000坪(16,500平方メートル)です。高岡は肥沃な土地ではありませんが、クマザサが生い茂り、クマも出没する原生林の開墾は困難をきわめました。

夏には沢の清水を運んで使わなければなりません。のち明治44年になってようやく良水の井戸が掘りあてられたのです。

■ 発展

明治22(1889)年に、竹中與衛門が石狩で始めて水稲栽培に成功します。明治30年代の初めには農耕馬の導入が広まって耕作能率が格段に上がりました。入植者も山口県からの第2陣をはじめ、兵庫、徳島、富山、秋田、石川、新潟、福井、愛媛各県から集まり、明治37(1904)年頃には五の沢を含めて200戸が住むようになっていました。大正期になると国内外の需要増で、エンバク、でんぶん用パレイシヨ、コムギなど畑作物の作付けが大幅に増えました。

昭和に入って5(1930)年には、地藏沢と五の沢に貯水池が作られて、水田用水が安定供給されるようになりました。

このように、明治末から大正、昭和初期にかけて、高岡の農業基盤はかたまってきたのです。

＜高岡開拓の始まりは・・・＞

・・・入植者が貸付を受けたのは1戸当り5,000坪(16,500平方メートル)です。高岡は肥沃な土地ではありませんが、クマザサが生い茂り、クマも出没する原生林の開墾は困難をきわめました・・・

(イコロ卵のこと)

「イコロ卵」はノーザンノーサンさんが生産する、平飼い・有精卵の卵です。無投薬で、安全で良質な有機物で育てられたニワトリから生まれ、こんもり盛り上がった黄身・白身に特徴があります。テレビ放映で紹介されて、最近では超有名になり、なかなか手に入りにくいそう。そんな卵を磨く私たちの手には、自然に力が入ります。

サムリブ高岡 作業の様子をご覧ください



テレビでも放映された貴重な「イコロ卵」を磨く



そして計量。LL~Sサイズごとに仕分けします

風の丘から～高岡の四季



周辺は豊かな農業地帯。数年後には私たちも自前の農地で自前の農業を行い、加工・販売へと進む予定です。

写真は収穫の終わった秋の高岡

(編集後記)

「風の王国Ⅱ たかおか・風便り」第1号をお届けします。2012年4月、旧高岡保育園跡地に私たちは第一歩を印しました。この地で農業を主体として、生産から加工・販売までを自分たちの手で行うことと、障がい者支援ではなく、生活を支え合う関係性を創ることが目的です。自然が産んだ芸術作品とも言うべきこの地で、ライフスタイルそのものが芸術的であることを心がけたい、そう思いながらです。どう進んで行くのか、どうぞお楽しみに。そう、実は私たちが一番楽しみにしています。(ふ)